

リハセンだより

第46号



新年の挨拶

病院長 小畑 信彦

あけましておめでとうございます。皆様、お元気で過ごしてでしょうか。

昨年、日本全体、そして、当センターにとっても、激動の時期でした。日本においては、少子高齢化が進み、いよいよ人口減少時代を迎えました。日本全体が「縮小」へと向かう中で、民主党が政権を取り、新しい理念の下、新しい政治手法による政治が展開しつつあります。新しい日本はどのような形になるのでしょうか。

当センターにおきましても、平成二十一年四月に地方独立行政法人となり、より柔軟で機動的な診療体制が組めるように組織、運営方法などが変わりました。また、春には日本医療機能評価機構の五年ごとの認定更新のために審査を受け、無事に認定が更新されました。秋にはセンター内の医療情報システムが、これもまた五年ぶりに新システムとなり、より効率的で安全な医療を提供するための、より強力なツール（道具）となっています。診療面の充実に加えて、これらの院内の体制整備を平行して行ったために、非常に慌ただしい一年だったと思います。更に、新型インフルエンザ対策も業務として加わり、非常に多忙でしたが、幸いに職員ががんばってくれたために、皆様にご迷惑をおかけすることなく、予定の作業を完了できました。今年は診療に全力を注げる体制が出来ましたので、より高品質の医療を効率よくご提供できるのではと期待しております。よろしくお願い申し上げます。



セレンディピティとインセンティブ

副病院長 佐山 一郎

「倒れてもタダでは起きない」や「何でもやってみよう」という精神が好きです。私も私の患者さんとも互いに齢を重ね、加齢に伴う様々な幸・不幸を経験するようになっていきました。以前は脳卒中は癌にならないと言われていたのに、治療の甲斐あって長生きしている私の患者さん、今度は検診でみつかった癌に悩まされるという構図です。脳卒中後、機能を回復されても以後の地道なリハビリがなければすぐに元の木阿弥。ヒトに知った顔をして忠告するのは簡単でも、自分の弱さを見つめることは難しい。リハ医の禁句は患者さんに「ガンバッテ」を連発すること。患者さんに相対する時はその言葉に耳を傾け、共感し、体験を通した言葉で次になすべきことを自分で判断されるように心がけています。

さて、昨年はリハセン独法化一年目で様々な事が重なり、本当に多難な一年でありました。リハセンを患者さんに見たてれば、まさに脳卒中中となって気弱になって、新たに癌が発見されたような状況でした。「セレンディピティ」とは、不運を幸運に変える力、「インセンティブ」とは如何にやる気を起こすのか動機付けのことです。常日頃、私の多くの患者さんからこの「セレンディピティ」と「インセンティブ」を学んでいます。また、最近読んだ本(*)には、最も有効にヒトを行動に駆り立てるものが具体的に整理され、興味深く読みました。

今年も我々を取り巻く社会状況の中で、「セレンディピティ」と「インセンティブ」を意識した姿勢と行動が求められます。新年に当たって二つの言葉を紹介し、新年の挨拶に代えました。今年、リハセンにとって、また皆々様にとって良い年でありますように。

*タイラー・コーエン著（高遠裕子訳）..

『インセンティブ 自分と世界をうまく動かす』

日経BP社2009年

「リハセンのロゴマークが決定しました」

「リハセンを宣伝するため、ロゴマークを作ろう」というのがきっかけで、昨年8月から9月に職員にロゴマークの募集を行いました。16作品の応募があり、職員の投票の際に最多投票数を獲得したこの作品に決定しました。中心部の若葉は命の力強さ、双葉はリハセンの診療科であるリハ科と精神科を、周囲の円は患者と医療者のパートナーシップや地域との連携、多職種協働の理念を表したものです。今後、ロゴマークを使っていきますので、よろしくお祈りします。



【リハセン案内看板を設置しました】

来院者への周知及びアクセス向上のために、国道341号のリハセン入り口2カ所（国道13号側：片面、協和インターチェンジ側：両面）に案内看板を設置しました。

また、道路案内標識3カ所（国道13号交差点（両面）・リハセン前（両面）・協和IC前）の張り替え及び国道341号リハセン入口付近の電柱4本への広告掲示を実施しました。



「病院機能評価 ver 5.0の認定を受けました」

リハセンは、(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価の結果、ver 5.0の基準を満たしていることが認定されました。平成16年にver 4.0の認定を受けてから5年の有効期間が満了することに伴い、現状について自ら点検するとともに、第三者の客観的な審査を受けたものです。

今後も医療やサービスの質の向上に努め、患者さんや御家族、県民の皆様から信頼されるリハセンを目指してまいります。



リハセンクリスマス会

平成21年12月17日（木）に恒例のクリスマス会が行われました。
今年は職員による歌やマジックショー、ハンドベルが披露され、楽しい時間を過ごすことができました。

最後にサンタクロースが登場し、患者さんにプレゼントが渡されました。



（今年の司会は
かわいいサンタさんです）



（医局の先生によるマジックショー、
誰だったでしょう??）



（リハセン三人娘が
盛り上げてくれました）

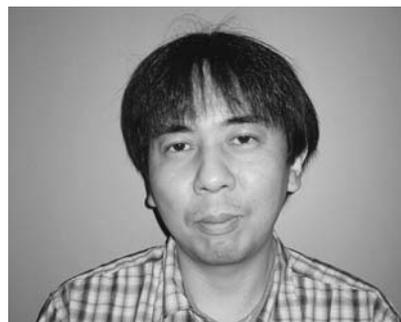


（サンタクロース登場！
プレゼントがいっぱい）



《新任医師の紹介》

12月より勤務となりました。よろしく
お願いします。秋田大学附属病院に勤務
していました。大阪出身です。秋田に來
て随分経つので、雪には慣れたつもりで
したが、協和の雪の多さには驚いていま
す。駐車場で立ち往生していたら助けて
ください。



北 條 康 之 先生

【秋田道沿線地域医療連携協議会の設立と第1回集会のご案内】

平成21年10月10日（土）県立リハビリテーション・精神医療センターの講堂において「秋田道沿線地域医療連携協議会設立総会」が開催されました。

この協議会は、脳卒中を中心に、発症から在宅ケアまでシームレスな医療・福祉連携体制を構築するために、関係する医療機関と福祉施設のスタッフが一堂に集い、互いの問題点を出し合い、学習し“顔のみえる”連携を築くことを目的に設立されたものです。地域医療連携パスの運用もこの協議会で話し合いを進めながら開始される予定です。設立時現在、急性期、回復期、維持期の医療・福祉関係の26施設が会員となっています。

この協議会の第1回集会在平成22年1月30日、14時30分からリハセンの講堂で開催されます。



秋田道沿線地域医療連携協議会第1回集会プログラム

■日時：2010年1月30日 [土] 14時30分から17時30分

■場所：県立リハビリテーション・精神医療センター、講堂

講演 1 (14:45~15:25)

・神経変性疾患、特にパーキンソン病の障害進行とその対応
～リハセンでの経験を中心に～

講師：横山絵里子先生（リハセン・リハビリテーション科）

講演 2 (15:30~15:50)

・パーキンソン病・パーキンソニズムの障害進行とその運動療法

講師：堀川 学主任（リハセン・理学療法部門）

講演 3 (16:10~16:50)

・動脈硬化性疾患の抗血小板療法・抗凝固療法

講師：武田 智先生（平鹿総合病院・循環器内科科長）

地域医療連携に関する質疑・討論 (17:00~17:30)

座長：藤岡 真先生

(1) 基調報告：秋田道沿線地域の地域医療連携を進めるための現状と課題

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター
佐山 一郎

(2) 質疑・応答

この第1回集会所への参加は秋田道沿線地域医療連携協議会への会員登録が必要となります。

年会費：施設会員 2,000円

個人会員 1,000円

秋田道沿線地域医療連携協議会への登録、第一回集会に関する申し込み、お問い合わせは下記の連携協議会事務局まで。

秋田道沿線地域医療連携協議会事務局

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 地域医療連携科

電話 018-892-3798

FAX 018-892-3816

《電話相談のご案内》

リハセンへの受診や入院に関することについて、
電話での相談に応じております。

お気軽にどうぞ。 電話 018-892-3751

ホームページアドレス

<http://www.med-akitarehasen.gr.jp/>

発行

秋田県立リハビリテーション・
精神医療センター

〒019-2413

秋田県大仙市協和上淀川字五百刈田352

電話018-892-3751

発行責任者 小畑 信彦